公益財団法人　日本交通公社　出版物のご案内

■旅行者動向2012　最新刊

最新の旅行の実態や旅行者の意識に関する全国アンケート調査結果を、当財団独自のさまざまな切り口で分析。グラフや図表を多用して分かりやすく解説。政策立案や事業展開などに幅広く活用できるマーケティングデータ集。二〇一二年十月発行。

■観光実践講座　講義録　最新刊

人を活かし、まちを活かす観光の考え方

～見えない価値を見せる「まち歩き」の実践

毎年十一月に当財団が主催している二日間の講座講義録。今回は各地で人気の「まち歩き」に着目。「長崎さるく博」総合プロデューサーで「大阪あそ歩」の仕掛け人、茶谷幸治氏が、人を活かし、まちを活かす「まち歩き」の思想と哲学を熱く語ったほか、各地の事例から実践的なノウハウも多数。また六月開催の基礎講座より、㈱四万十ドラマの畦地履正社長の基調講演も収録。二〇一三年三月発行。

■Market Insight 2013

（日本人海外旅行市場の動向）最新刊

日本人海外旅行マーケットの構造的な変化とその要因を詳細に解説したレポート。二〇一二年の最新市場動向をカバー。当財団の独自調査を基に、変化の下に働く中・長期的ダイナミズムを明らかにしています。日本語版、英語版あり。二〇一三年七月発行。

■旅行年報2013　近刊

直近二年間の旅行・観光市場にまつわるあらゆる出来事について、数多くのデータ・資料を基に分析。日本人の国内・海外旅行、外国人の訪日旅行、観光産業、国内観光地、観光政策など、さまざまな角度から旅行・観光市場の現状を望できる一冊。二〇一三年十月発行予定。

※当財団出版物のご注文はホームページからお願いします。

担当：公益財団法人日本交通公社　観光研究情報室

電話　03・5255・6073　http://www.jtb.or.jp

次号予告

●当財団が一九二二年に創立され一世紀、一九六三年の改組によって観光および旅行に関する研究調査の専門機関として半世紀。この間、わが国の「観光」のあり方は大きく変遷してきました。そのなかにあって、「観光研究」や「観光学」は、どのような役割を果たし、何が成せなかったのか、当財団のこれまでの事業、研究活動とも照らし合わせつつ、建設的に検証したうえで、今後、当財団が果たすべき役割を、改組五十周年記念号として考察します。

当財団からのおしらせ

「2013年度シンポジウム・セミナー」

当財団主催の今年度シンポジウム・セミナーついてご案内します。

六月　観光基礎講座

七月　海外旅行動向シンポジウム（東京）

八月　海外旅行マーケットin大阪

を予定どおり開催しました。

旅行動向シンポジウム（十二月十九日）、観光実践講座に関する最新情報・詳細については、準備ができ次第、ホームページのインフォメーションでご案内させていただきます。当財団ホームページ URL：http//www.jtb.or.jp

「研究員コラムの紹介」（二〇一三年六月～二〇一三年八月）

行く先々で見て触れて、そして地元の人たちと語り、感じたこと。世相のなかに見た観光の未来像など、各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した三カ月分をご紹介します。

193　地域における温泉旅館、その価値と意味――（吉澤清良）
194　外国人旅行者から学ぶ日本の魅力――（相澤美穂子）
195　「あるべき姿」に近づくために――（安達寛朗）
196　ムスリム旅行者対応にまつわる私感――（川口明子）
197　観光地域づくりを担う人材に求められるもの――（菅野正洋）

当財団ホームページURL　http//www.jtb.or.jp/　研究員コラム一覧　で検索

編集後記

◆国土交通省はビジット・ジャパン・キャンペーンを二〇〇三年にスタートさせました。今年は東南アジア五カ国に対する訪日ビザ免除・緩和、円安、加えて富士山の世界文化遺産登録というプラス要素もあって、旅行者が増加しています。さらに、二〇二〇年の東京オリンピック招致の決定で日本への注目度が高まるなかで、二〇一三年の訪日外国人旅行者数は一千万人を超える可能性が出てきています。

◆今後は、訪日外国人旅行者が増えるなかで、各地域の受け入れ環境づくりを進めるうえで、外国人旅行者一人ひとりにきめ細かく対応すること、つまり〝おもてなし〟が重要となります。訪れる地域のファンとなってリピートし、さらに口コミでその親族、友人・知人が訪日するというシナジーを持続的に生み出せる鍵になりそうです。

◆アジアを含むいろいろな国々からの旅行者が国内のさまざまな地域を訪れるようになると、地域独特の原風景や食・文化に触れ、地域の人々との交流が盛んになります。おもてなしする地域の人々にとっては、多様な異文化との交流が進むなかで、地域活性化につながります。

◆訪日旅行者の旅行スタイルが観光を主目的とする団体旅行からFITへ成熟していくと、旅行者の訪日目的も多様化してきます。地域の人たちが当たり前と思っている地元のモノやコトが外国人旅行者には興味や魅力の対象になる可能性があります。それらを発見して育て、創造することを考える好機になると考えます。（片桐）

観光文化編集室メールアドレス：kankoubunka@jtb.or.jp

観光文化219号やバックナンバーをPDFで閲覧できます。観光文化最新号　で検索